

どうなったトライアル事業

古澤 國義



古澤 予算の中で、今までやってきたトライアル事業（新規就農を含めた担い手対策）の「雇用促進事業」というのが今年はなくなっているがなぜか。

渡邊経済部長 トライアル事業は、平成18年度から2カ年行っており、当事業については、県の労働雇用総室から地元協議会を立ち上げて、協議会に一括して予算は流れていくことになっており、市の予算には計上されません。

古澤 トライアル事業、すなわち東部高冷地農業は、大野川の推進事業ではないかと思うが、計画変更の580億円になった時の受益者の同意は、市農政課の行政指導のもとで行ったと思うが。

経済部長 第1回変更が平成3年、第2回変更が平成17年となっておりませんが、同意については、旧波野村時代に行ったものです。

古澤 県営事業については、阿蘇市も2名の職員がまわって、同意の

印鑑をもらったが、大野川の推進をする中で、どうしてトライアル事業はなくなったのか。

経済部長 新規就農者を受け入れるための下地づくりとして、地元を受け入れ態勢を作っていくということが、まず必要であることから、今年度はやめているという状況です。

その後の波野温泉は

古澤 波野の温泉（福祉温泉）の今後の方向性を伺いたい。

市長 約9530万円かけて源泉が出たということで、波野の住民の皆さん方にとっては、待望の温泉。費用対効果ということで、うまくできないだろうか、継続して、今一生懸命色々な方策を考えています。



波野の温泉源

阿蘇市議会広報委員会は、長崎県・時津町議会広報編集特別委員会と

交流研修を行いました

私たち広報委員会は、長崎県西彼杵郡時津町議会の広報編集特別委員会と交流研修を行いました。これは、時津町議会が、「議会広報編集の先進地研修」を当市に申し込まれたので実施したものです。

時津町は、人口2万9千人余り、面積は20・70平方キロメートルの町で、長崎市のベッドタウンとして人口が増加しており、交通の要衝として発展している町です。

交流研修は、5月15日午後1時から、阿蘇市役所・議会棟委員会室で、本市の広報委員8名と時津町広報編集特別委員6名で行われ、年間の広報発行回数・発効日・委員会の開催回数・原稿の作成要領等を議題として話し合い、お互いの取り組み状況について意見交換をしました。

議会だよりは、市民の方々に議会の情報を的確に伝える極めて有効な手段であり、責任の重い仕事であることから、参加者

全員が今後の議会だよりを活かしていくため、熱心に意見を出し合いました。

研修は午後4時過ぎに終了し、時津町の皆さんは、阿蘇市内のホテルに宿泊をされ翌日帰られました。

最後になりますが、今後も他の市町村と交流研修を進め、今後の議会だよりに活かしていきたいと考えています。



長崎県時津町広報委員会との交流研修